



▲会場となった縁豊かな
松本記念音楽迎賓館

ONKAN 「夏の勉強会」レポート

よりよい授業を求めて ～指導と評価のポイント～

教員免許状更新講習（選択 12 時間）認定

今年は、7月（26日～27日）と8月（23日～24日）の2回開催しました。

この勉強会では、体験型のグループ研修として、実際に音楽を聴いて教材研究をしたり、題材構成を検討したり、具体的に授業展開を考えていいくなかで、指導と評価の両面から授業のあり方を考えました。

2日間の内容は以下の通りです。

●研修の内容（7月、8月ともに同じです。）

第1日（土）10:00～18:00
1. 講演「教育の過程——研修にあたって」
2. 講義「音楽鑑賞の指導と評価」
3. グループ研修「音楽鑑賞の指導と評価」の実際：事例作成
第2日（日）9:30～17:30
3. グループ研修 続き 「音楽鑑賞の指導と評価」の実際：事例作成
4. まとめ

グループ研修では、次の教材を鑑賞教材として中心に扱い、授業について考えました。
扱った教材は以下の通りです。

●7月の教材

A：小学校低学年

『トルコ行進曲』（ベートーベン作曲）

B：小学校高学年

『ハンガリー舞曲第5番』（ブラームス作曲）

C：中学校2・3年

「歌舞伎『勘進帳』」

●8月の教材

A：中学校2・3年

「歌舞伎『勘進帳』」

B：中学校2・3年

『ボレロ』（ラヴェル作曲）

C：小学校中学年

『トルコ行進曲』（ベートーベン作曲）

1. 講演「教育の過程——研修にあたって」



藤沢章彦先生からは、ブルーナー著『教育の過程』を引きながら、よりよい授業を考えるためのポイントを3つ挙げ、この2日間の研修で何が重要となるかが話されました。

- ①学習内容の理解
- ②子どもの実態把握
- ③指導法の工夫（教材、学習活動など）

指導法の工夫では、「その学習活動は子どもにとって“楽しいか”」が印象的でした。

2. 講義「音楽鑑賞の指導と評価」

7月は萬司先生、8月は館雅之先生のお話で、学習指導要領の内容、学習評価の内容を当財団発行の『これからの中の鑑賞の授業』『これからの中の鑑賞の授業2』を使って確認・体験しました。

中心となった内容は以下の3つです。

- 指導と評価が一体となった授業展開を考えるに当たって、まずは教材を十分把握するための方法として〔共通事項〕を窓口にして分析・研究する。
- 上記の教材研究によって、指導（学習活動）と評価の見通しを立てる。
- 子どもたちが達成感をもち意欲的に学習に取り組む1つの提案として、「チェック＆フォローアップ」の考えを取り入れ、きめこまやかな指導を展開する。



▲萬先生

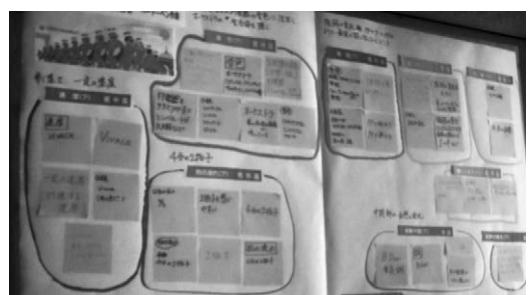


▲館先生

3. グループ研修

それぞれのグループに分かれて、授業の組み立て方を研修しました。

- ① 指定された教材を聴いて（視聴して）、その教材性を〔共通事項〕を窓口に具体的にする。グループによっては、各自が考えたことを付箋に書き、それをホワイトボードなどに貼って整理する。



- ② 指導事項とかかわらせながら、〔共通事項〕を絞り、題材の目標、題材の評価規準を検討し、授業展開（学習内容・学習活動）を考える。ここでは、授業展開が活動の列記にならないよう、つねに学習内容、題材の目標と確認しながら進める。





③ 授業展開の中で子どもたちがつまずくであろう場面を想定し、そこでの見取りと支援（音鑑提案の「チェック＆フォローアップ」）を考え、どの子どもにも学習の確実な定着があり、かつ成就感や意欲をもてるようとする。

検討した指導の内容は、以下の通りです。

●7月

A：小学校低学年

鑑賞中心教材：『トルコ行進曲』

指導内容：強弱の移り変わりや拍の流れを感じ取って様子を思い浮かべて歌ったり、聴いたりする学習。

B：小学校高学年

鑑賞中心教材：『ハンガリー舞曲第5番』

指導内容：曲想やその変化を感じ取って、表現の工夫をして歌ったり、想像豊かに聴いたりする学習。

C：中学校2・3年

鑑賞中心教材：歌舞伎『勘進帳』

指導内容：歌舞伎『勘進帳』の音楽の特徴を物語の進行や舞台の表現と関連付けて鑑賞する学習。

●8月

A：中学校2・3年

7月のグループCと同じ。

B：中学校2・3年

鑑賞中心教材：『ボレロ』

指導内容：音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわり理解して、鑑賞する学習。



C：小学校中学年

鑑賞中心教材：『トルコ行進曲』

指導内容：旋律の違いと反復、強弱の変化が生み出す楽曲の構造に気を付けて聴いたり、曲想表現を工夫したりする学習。

4.まとめ

各グループから、それぞれのグループ研修の概要が報告され、全体講師の藤沢先生より2日間のまとめのお話で終了しました。

◆アンケートから◆

- ・[共通事項] を窓口に、ということが具体的にどのようにすればよいのか、授業の組み立て方から評価に至るまでみえてきました。
- ・具体的な授業の展開を通して、指導と評価について詳しく学ぶことができた。
- ・「どの子にも…」ということで、支援（フォローアップ）について、具体的なお話しが勉強になった。私も、表面だけでなく、子どもができなかつた時の手立てをよく考えていきたい。

グループ研修 指導助言者

●7月

A：河崎秋彦（茨城県つくば市立二の宮小学校教諭）

B：江田 司（和歌山大学教育学部附属小学校教諭）

C：萬 司（北海道札幌市立柏丘中学校教諭）

：安部文江（信州大学教育学部附属松本中学校教諭）

●8月

A：長者久保希史子（青森県八戸市立三条中学校教諭）

B：勝山幸子（東京都港区立六本木中学校主任教諭）

C：石井ゆきこ（東京都荒川区立尾久第六小学校主任教諭）

：館 雅之（神奈川県横浜市立高田東小学校副校長）